

令和元年度 学校評価書

若狭町立三方中学校



I 学校の自己評価

1 学校の自己評価および生徒意識調査

(1) 確かな学力

(2) 豊かな心

(3) たくましい体

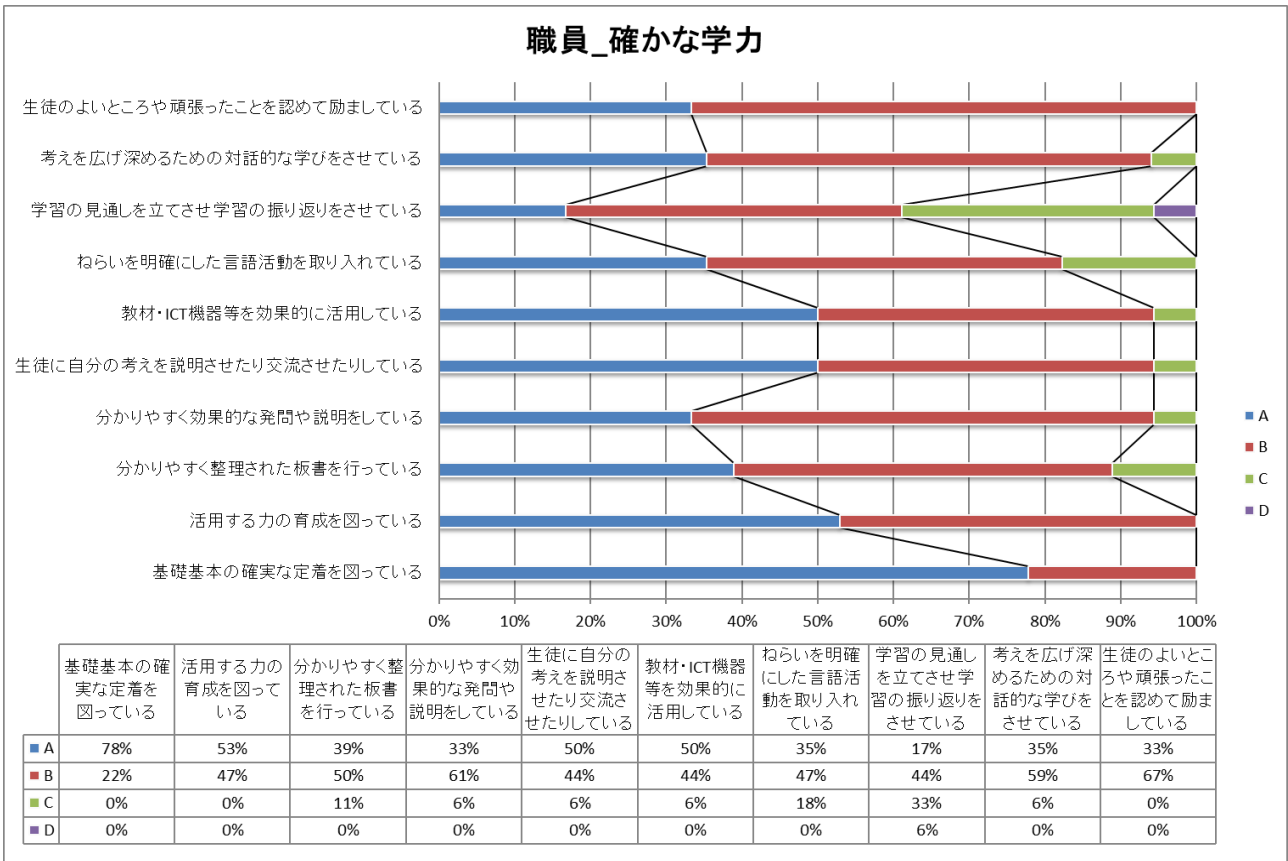
(4) 家庭・地域との連携

2 次年度の取組課題

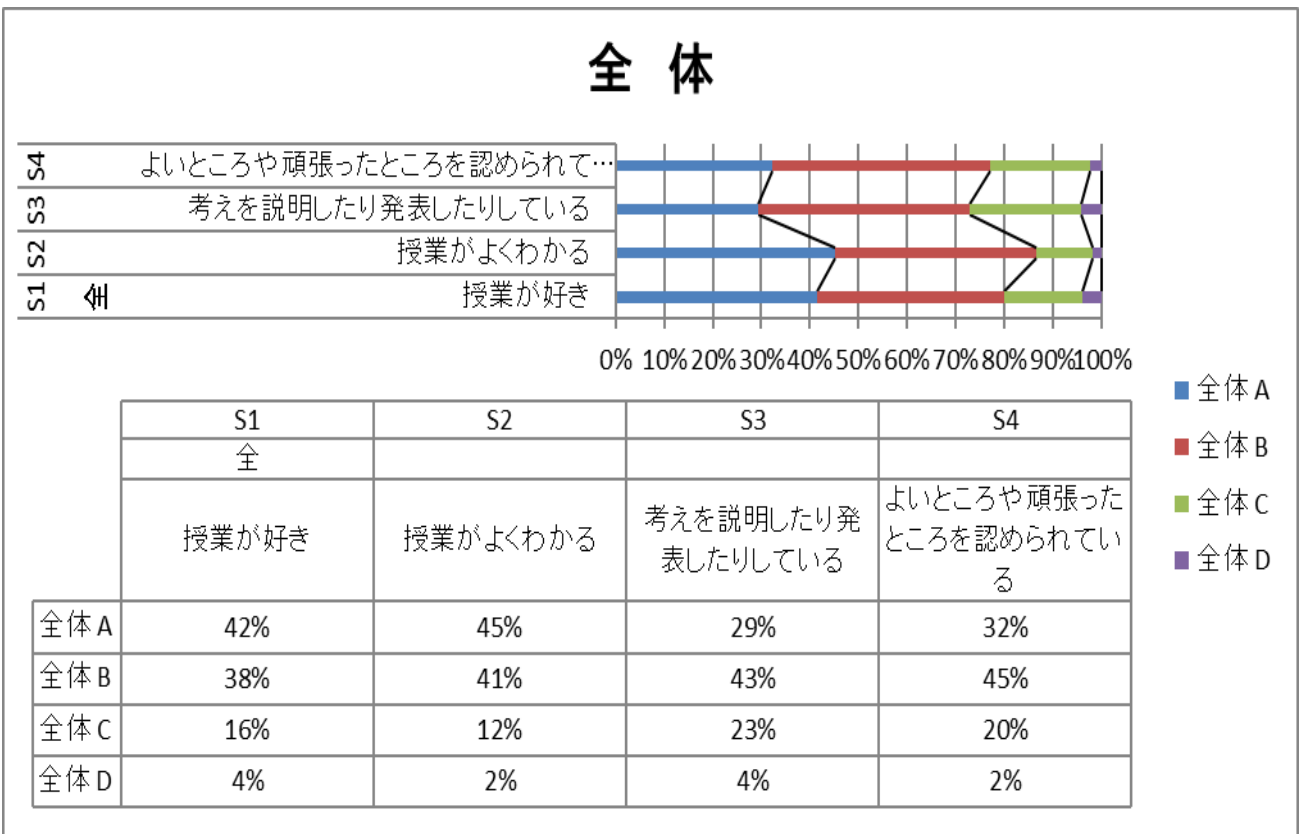
II 学校関係者評価

学校評価（2学期末） 確かな学力

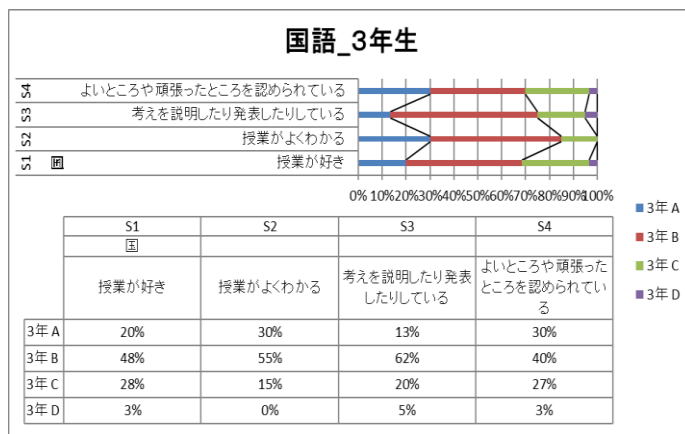
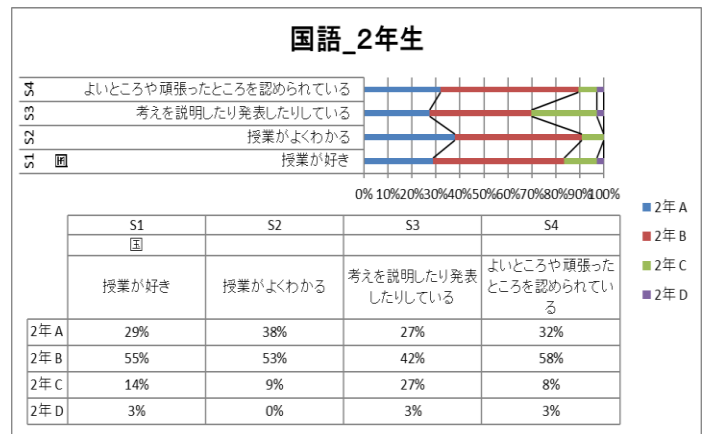
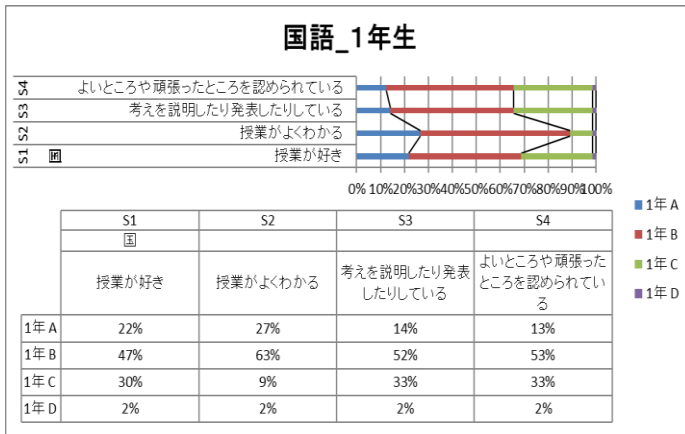
[職員自己評価]



[生徒意識調査]



学校評価（2学期末） 確かな学力 【国語科】



成果（○）と課題（▲）

○2年と3年ではS1、S3、S4の項目で肯定的な回答の割合が1学期より増えた。

活動的な学習を多く取り入れて、生徒の主体的な学習活動を試みた成果と考える。

○S4は全学年で肯定的な意見が増えた。特に2年生では23%の伸びがあった。活動の中で生徒の長所や頑張りをノート添削や授業の中で認めることができたと考えられる。

▲1年でS1、S3の項目で否定的な回答が増えた。S3については古典学習中心であったため、考えを説明する場面は減ったと考えられる。S1については、古典学習の魅力を伝えることができていなかったと考える。

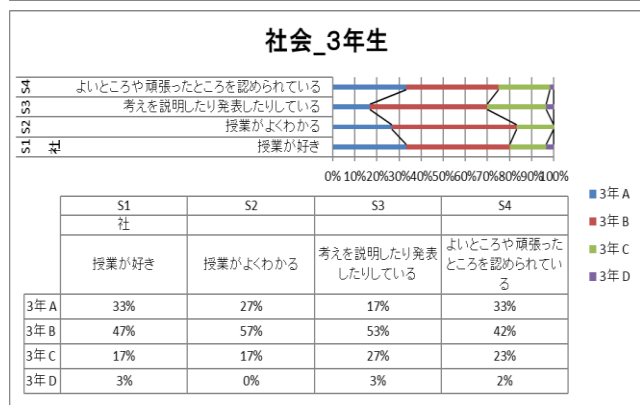
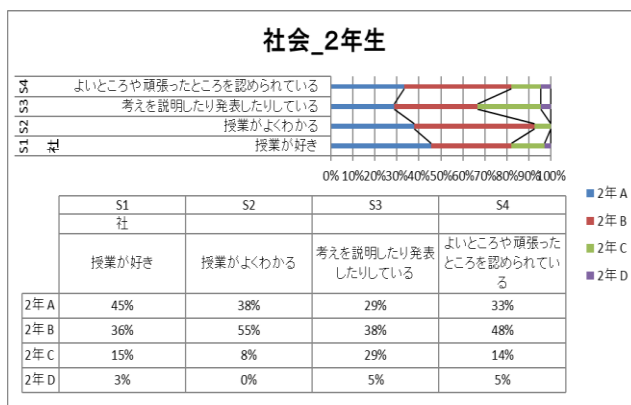
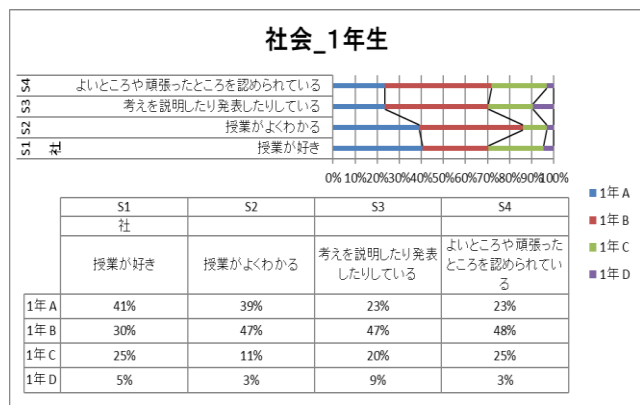
▲1学期と比べ、S2「授業がよくわかる」の2年の肯定的回答が2%低下。3年では横ばいであった。特に2年生では「よくわかる」の割合が減少し、「わかる」の割合が増えているため、古典学習に苦手意識を持つ生徒がいると考える。

▲1年と3年でS1「授業が好き」の割合が7割に到達していない。つまり「やや嫌い」「嫌い」の割合が3割を越えている。この2つの学年は国語における「書く」「読む」「話す」といった表現活動そのものに抵抗を感じている生徒の割合も多いと感じている。こうした生徒にどう興味関心を持たせていくかが鍵である。

次年度取組事項

- ・読み取る力や要約力をつけ、現代社会の問題点を常に意識づけるために、次年度も新聞コラム学習を2年と3年で後継して行く。
- ・目標を明確にし、課題解決型の学習を取り入れて主体的な学習に取り組ませる。

学校評価（2学期末） 確かな学力 【社会科】



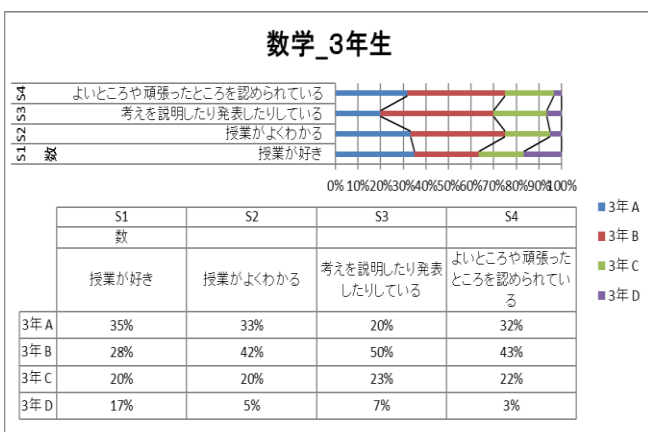
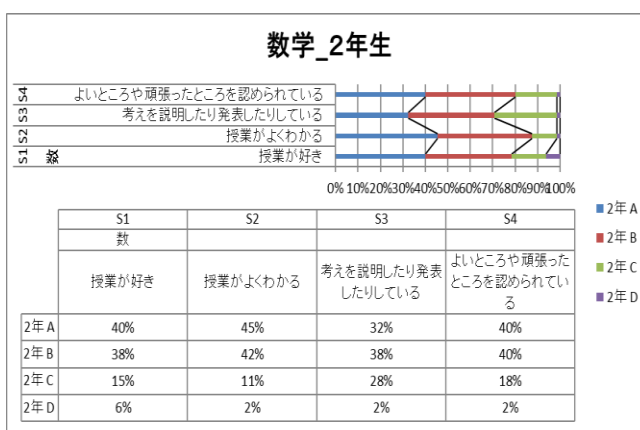
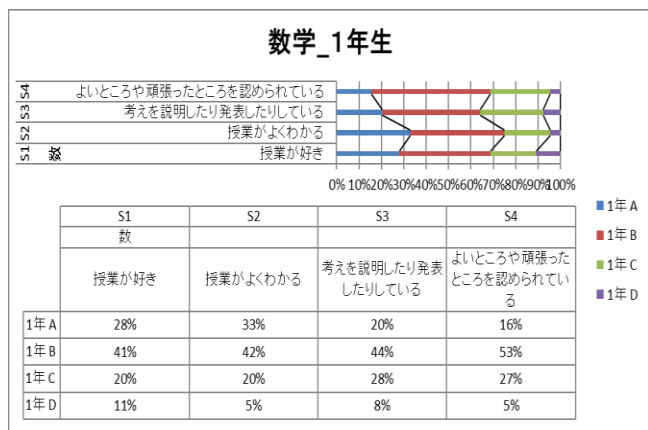
成果（○）と課題（▲）

- 3年生は全体の項目では、1学期と比較して大きな変化は見られないが、肯定的な意見が若干増加している。
- 2年生は、「考えを説明したり発表したりしていますか」「よいところや頑張ったところを認められていますか」の項目に対して、肯定的な意見が増えている。
- 1年生は、「授業が好き」以外の項目で、肯定的な意見が増えている。
- ▲ どの学年も、「考えを説明したり発表したりしている」「よいところや頑張ったところを認められていますか」の項目で、約30%の生徒が否定的な回答をしている。

次年度の取組事項

- ・教師側は、発表や説明の場を設定しているつもりであるが、そのように感じていない生徒が約3割いることが明らかとなった。その理由として、自分の考えを構築する時間やそれを伝える時間が足りないことが考えられる。以上から、授業の展開の仕方について、教師主導から生徒主導に少しずつ変化できるようにしていく。
- ・テストの結果によって、頑張りなどの評価がされているところがあるので、授業の中でも達成感が得られるように、課題設定の工夫をしていく。

学校評価（2学期末） 確かな学力 【数学科】



成果（○）と課題（▲）

○教科書＋プリントなど、例年より丁寧に取り組んだことで、肯定的な評価が増加した。（2年生）

○再テストや勉強会など徹底して取り組み、「できる」まで取り組ませたことで、「授業がよく分かる」と肯定的に捉える生徒が多くなった。実際、生徒の声として「分かるとおもしろい」と話す生徒がいた。（2・3年）

○音声計算で既習事項の確認を行ったり、自己選択の課題を設けたりしたことで、意欲的に取り組む生徒が多く、1学期に比べて肯定的に自己評価する生徒が増えののではないかと。（3年生）

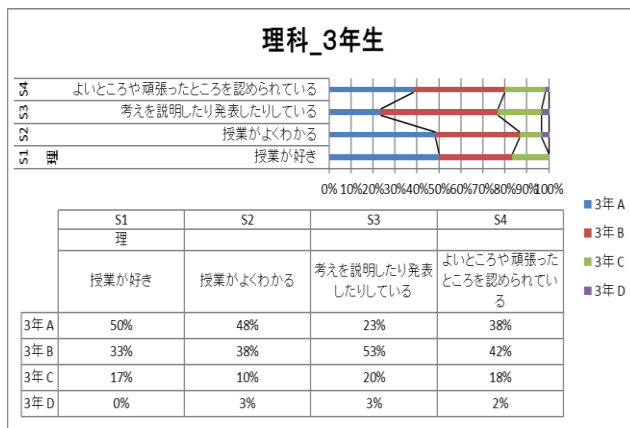
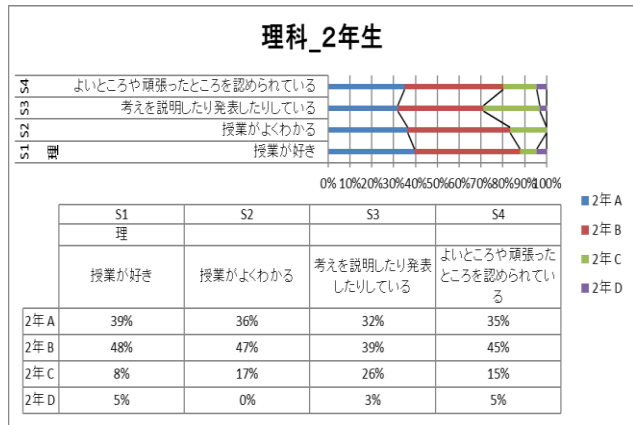
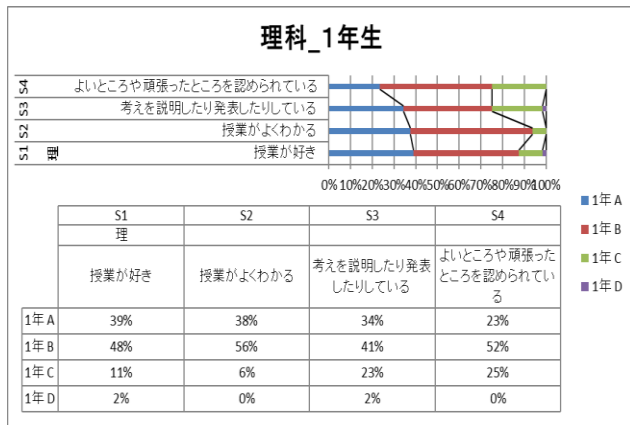
▲1学年では、難易度も1学期に比べて急上昇したこともあり、1学期よりは肯定的な回答をする生徒が減少した。「分かる授業」「できる授業」「楽しい授業」をバランスよく取り入れていく必要がある。

▲アンケートを取る時点での生徒の認識の違い、共通理解が不十分である。

次年度取組事項

計算ノートの宿題を、全員同じように取り組ませるのではなく、最低10問を基準として、さらに自主的に取り組み評価していくシステムを導入し、主体性を育み、知識・技能の着実な習得を目指す。また、確認テスト対策プリントなどについての取り組みも同様の方法で行っていく。授業の最初は、音声計算（1，2年生）と小プリント（3年生）を行い、基礎基本の内容の定着を図る。

学校評価（2学期末） 確かな学力 【理科】



成果（○）と課題（▲）

【1年生】

- 「授業が好き」「授業がよくわかる」の項目において、AB 合わせて 80%を超えており、1 学期以上により結果が得られた。一人一人が授業内に考え、話し合い、理解することができているからだと考えられる。
- 「よいところや頑張ったところを認められている」が AB 合わせて 68%から 75%に上昇した。生徒の意見を授業に反映することで、生徒の自己肯定感が高まったと考えられる。

▲ どの項目においても A と答えた生徒の割合が減少した。

【2年生】

- どの項目においても、AB 合わせた数値は 1 学期からほぼ変化していない。授業内容が難しい中、発問や学習課題を工夫して設定した成果だと考える。
- ▲ 「考えを説明したり発表したりしている」が AB 合わせて 71%と、4 つの項目の中で割合が一番低い。クラスの数が多く、説明したり発表したりする機会が少ないことが原因と考える。

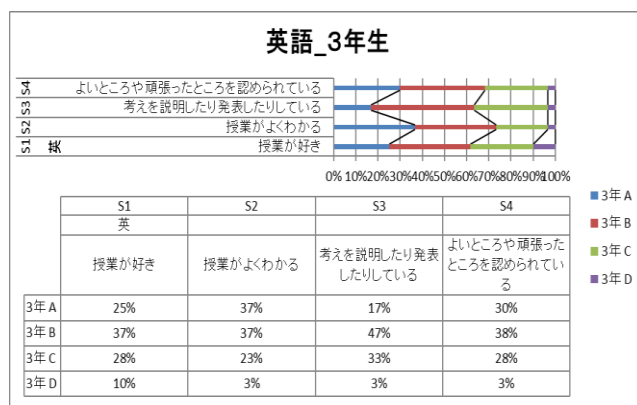
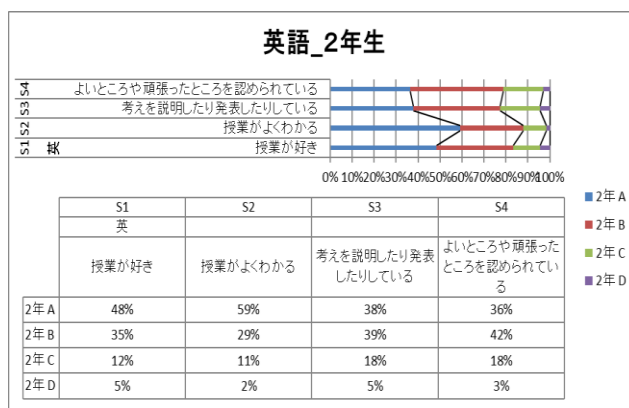
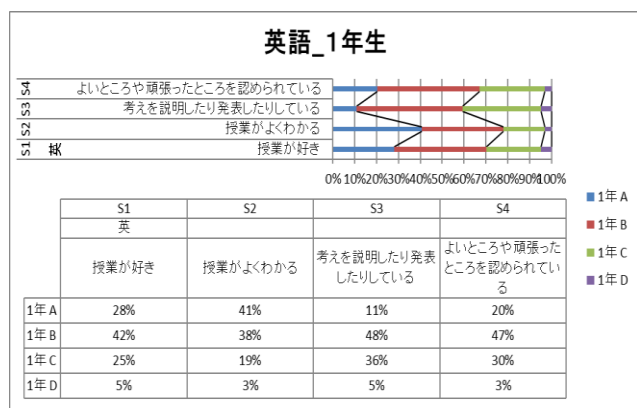
【3年生】

- 「よいところや頑張ったところを認められている」が AB 合わせて 1 学期 72%から 80%に上がった。
- ▲ 「理科の授業が好き」が AB 合わせて 1 学期 90%から 83%に下がった。

次年度取組事項

- ◇ これまで同様、発問や学習課題を工夫して設定する。また、理科部会で情報共有を行い、効果の高い教材やワークシートを共有する。
- ◇ クラスの数が多くても説明や発表の時間を確保したい。そのために、話し合う形態を工夫する。

学校評価（2学期末） 確かな学力 【英語科】



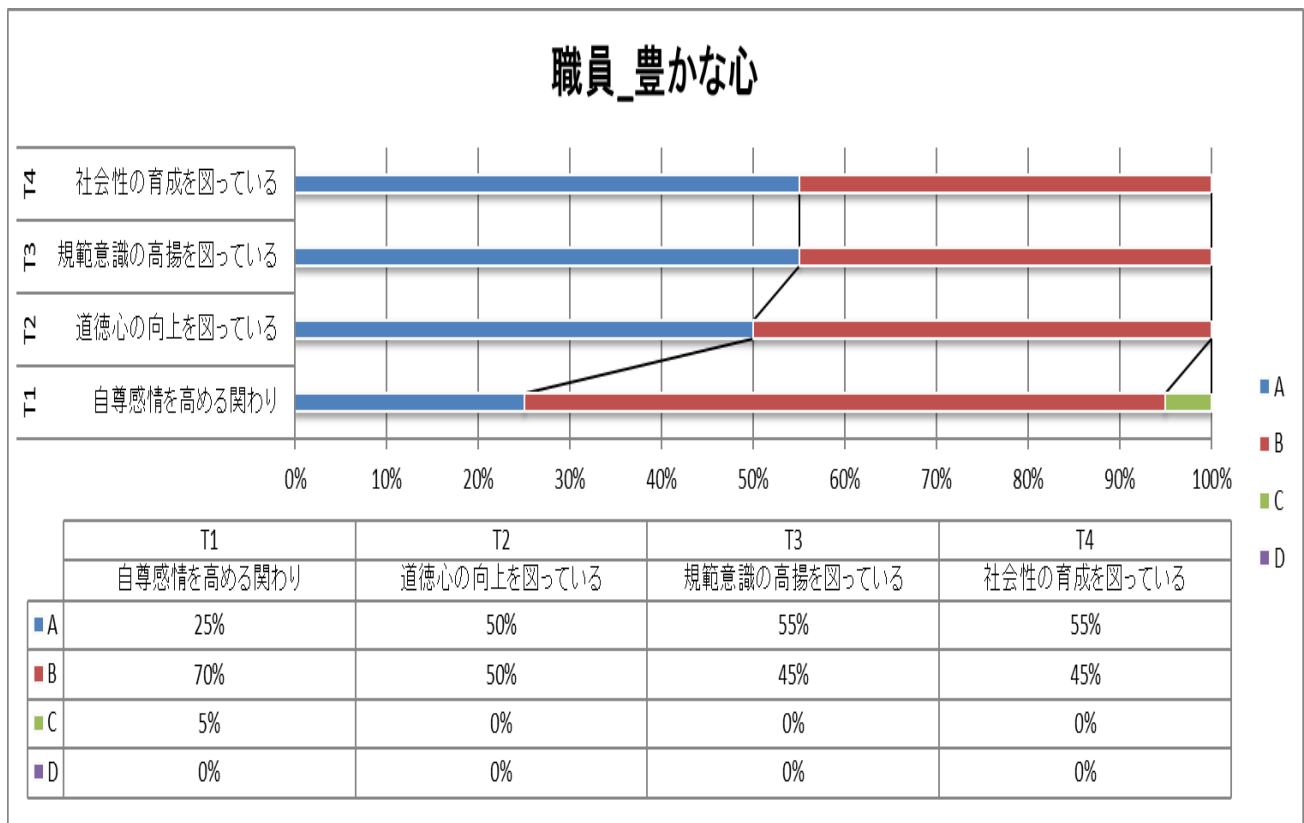
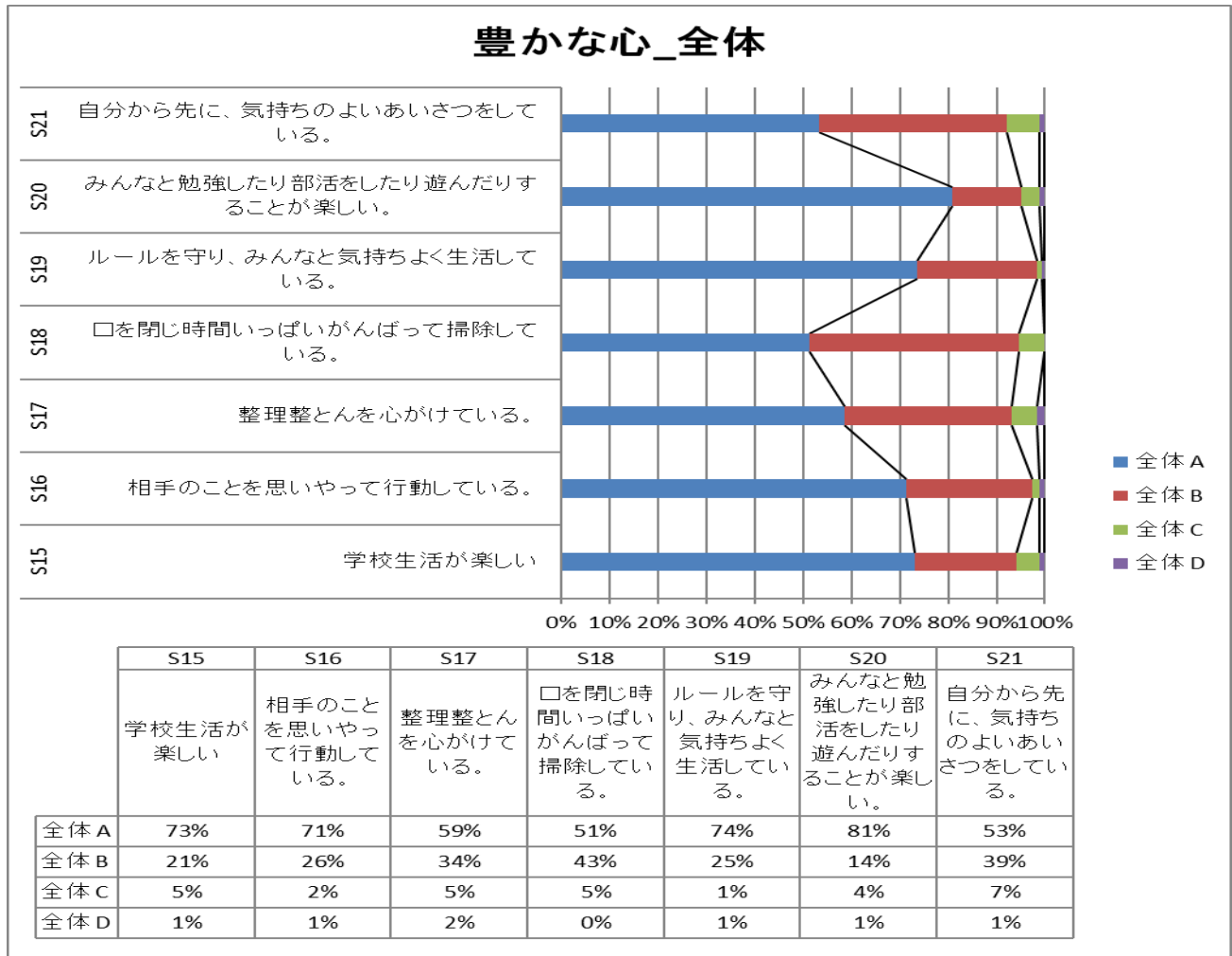
成果（○）と課題（▲）

- 1学期に比べ、「よいところや頑張ったところを認められている」と感じている生徒が、2年生、3年生で増えている。
- 2年生では「授業がよくわかる」と感じている生徒が1学期に比べて増え、授業に意欲を持って取り組む生徒が多い。
- 3年生では、「授業が好き」「授業がよくわかる」と答えた生徒が増加した。
- ▲ 1年生はどの項目においても「あてはまる」と回答している生徒が減少している。内容が難しくなるに従って、「授業がすき」「授業がよくわかる」と感じられなくなっているためだと考えられる。
- ▲ 3学年とも「考えを説明したり発表したりしている」と感じている生徒が減少している。

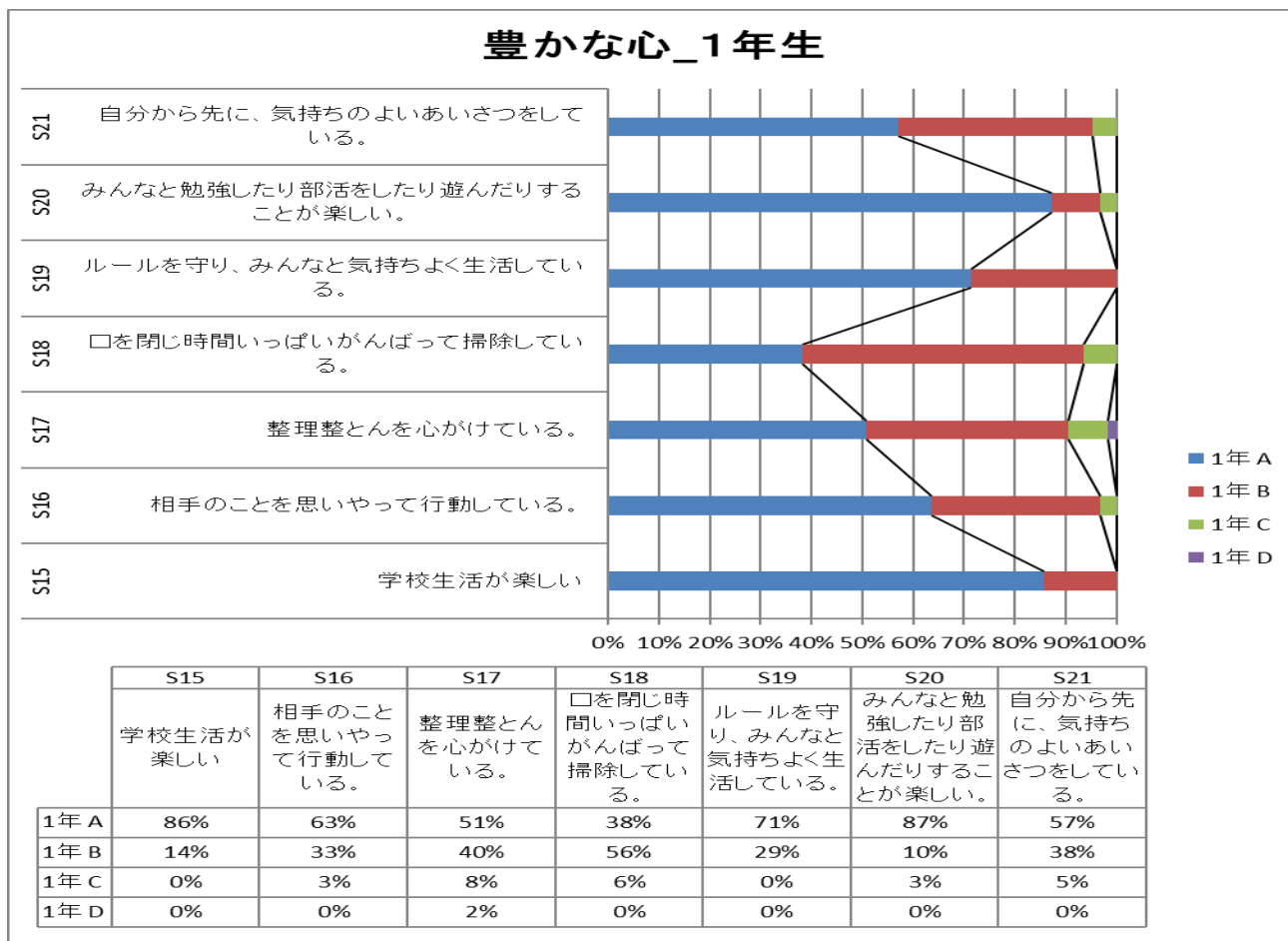
次年度取組事項

- ・ 授業の流れや活動を工夫し、生徒にとってわかりやすい指導を行う。また、授業において語句や基本文を押さえ、単元末テストや基礎テストで確認し、基礎基本の定着を図る。気がかりな生徒には個別で指導を行う。
- ・ 生徒たちが話したくなるような言語活動などを多く取り入れ、自分の言葉で表現する機会を増やす。
- ・ 生徒たちができたこと、よかったところなどをその場できちんと褒め、生徒たちが発言しやすい雰囲気づくりを行う。

学校評価（2学期末） 豊かな心



学校評価（3学期末） 豊かな心【1年】



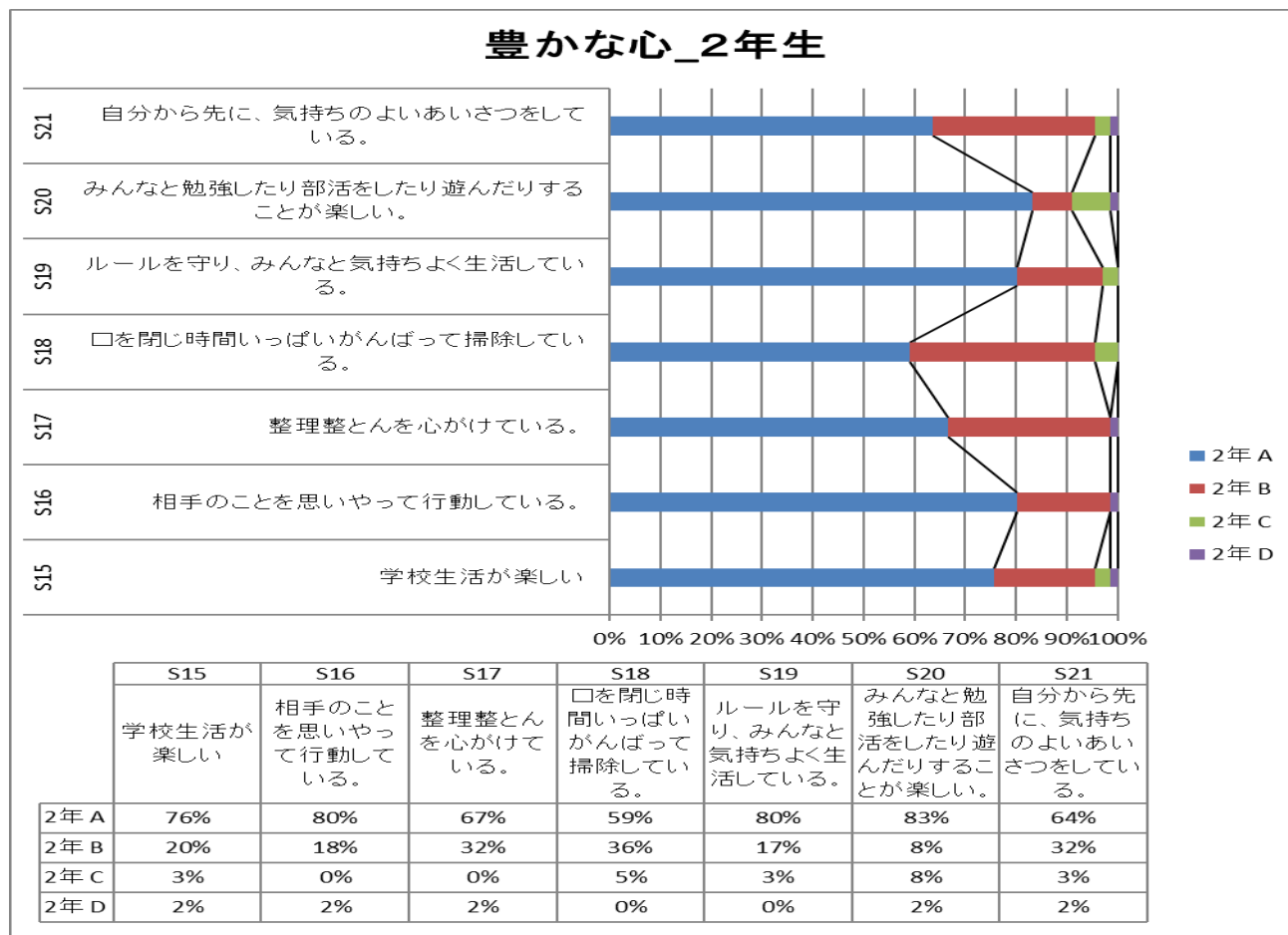
成果（○）と課題（▲）

- 生徒に、ルールを守ることや声を掛け合うことを呼びかけ、休み時間の様子にも目配りすることで、安心してすごせる学年づくりを意識してきた。S15（学校が楽しい）について、Dが1名から0名となり、Aが2名増加した。
- S17（整理整頓）について、Dが5名から1名に減少した。
- ▲ S16（思いやり）、S18（黙働）、S19（ルール）のAの値が下がり気味である。学校生活への慣れに伴う仲間関係や規律面でのゆるみと考えられる。引き続き、意識付けを行っていく。
- ▲ S20（みんなと…）について、Dが1名から0名になったが、Aも3名減少した。

次年度取組事項

- ・ルールを押さえなおして新学年をスタートさせる。正しさがまかり通る学年、立場の弱い者も安心して過ごせる学年づくりに引き続き取り組み、新しい環境で前向きに努力しようとする思いを育む。
- ・先輩としての自分を意識し、より良い自分の姿をめざし行動する生徒を育てる。
- ・互いに声を掛け合い、判断し行動できる集団としての自治能力を育てる。

学校評価（2学期末） 豊かな心【2年】



成果（○）と課題（▲）

○どの項目も A、B と肯定的な回答をした生徒が90%を超えている。

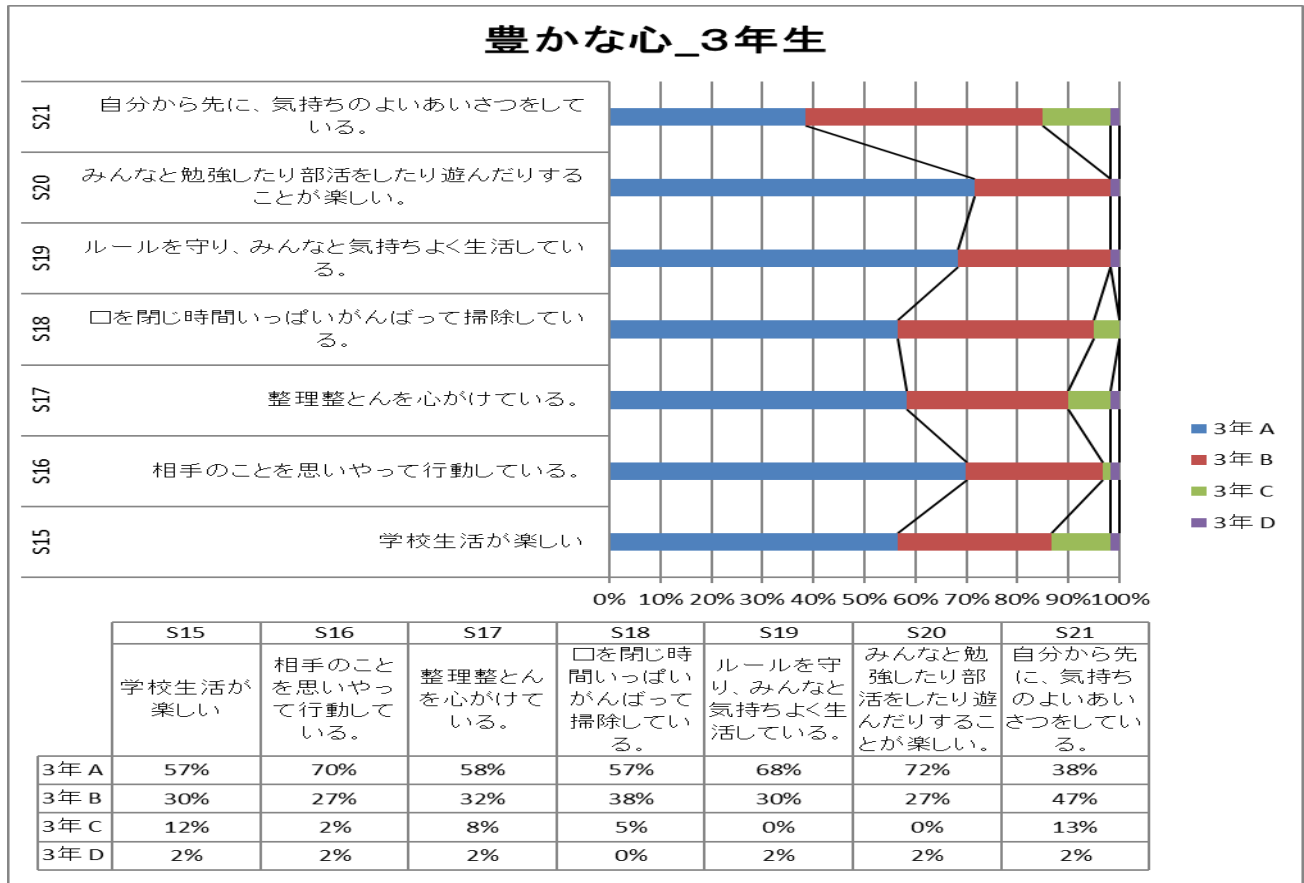
○黙働以外は A と回答した生徒が増えている。特に自主的な挨拶の項目が、A の回答が10パーセント近く増えている。

▲みんなと学習や部活動などの学校生活を楽しめていないと回答している生徒が、10%ほどおり、増加している。

次年度取組事項

- ・最上級生になる上で自分の目標を立て、その目標に向かって努力することで、学校生活への意欲を喚起する。
- ・様々な学校行事の中心となって動くことを通して、学校生活を充実させる。
- ・学校の中心となる自覚をもち、1年後の自分の姿を想起させ、よりよい一年にしていくよう声かけをしていく。

学校評価（2学期末） 豊かな心【3年】



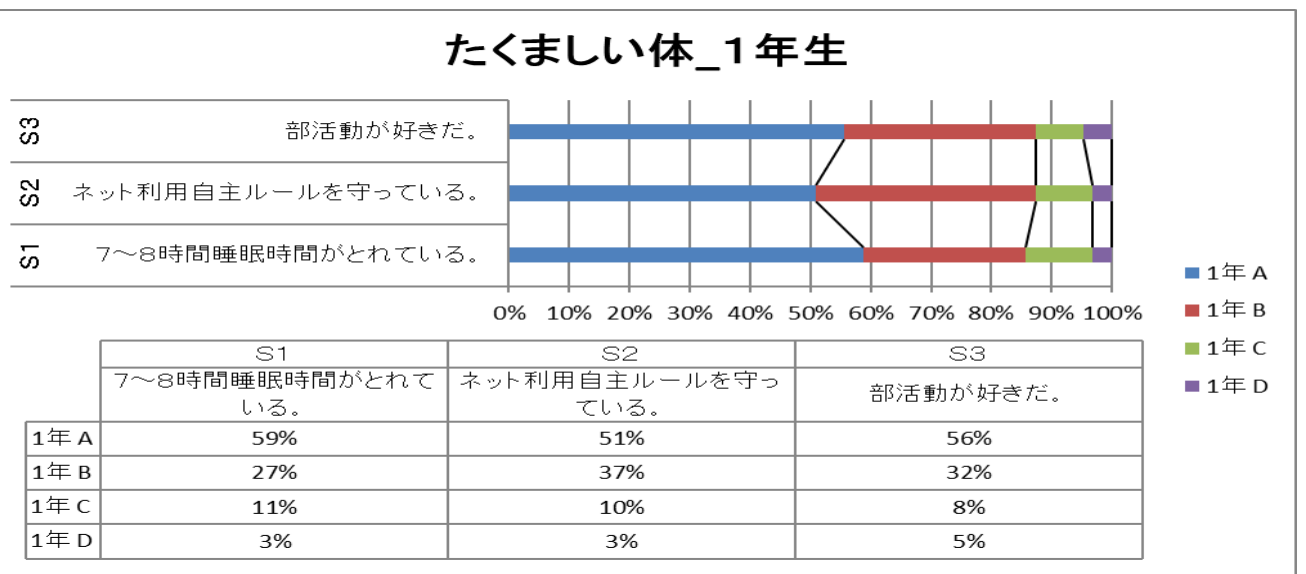
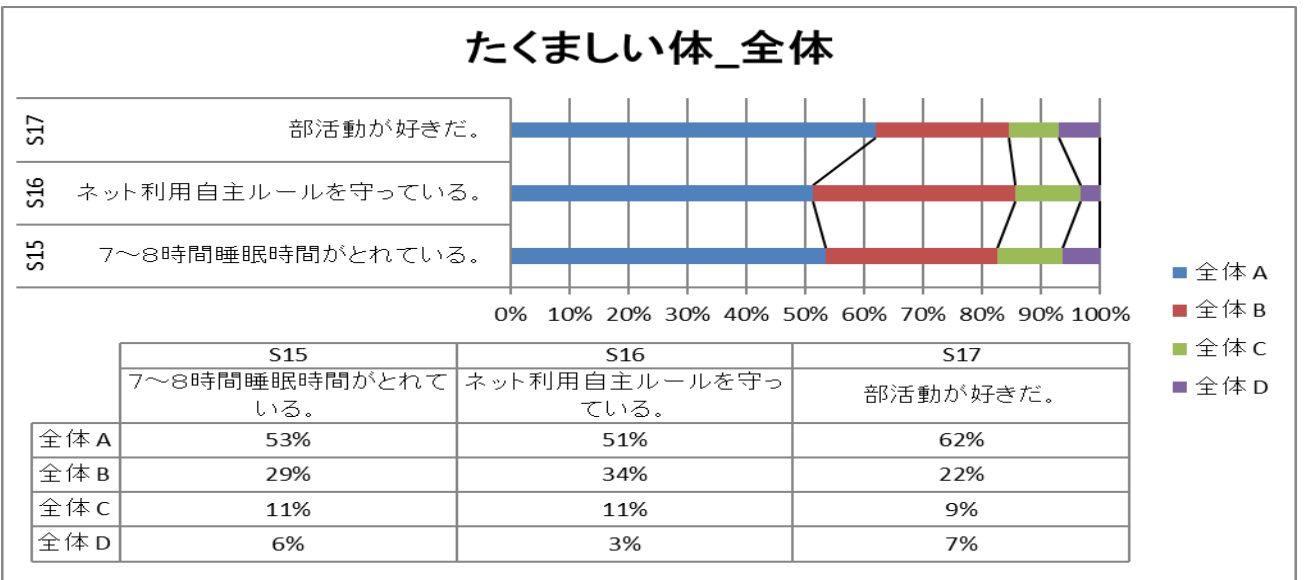
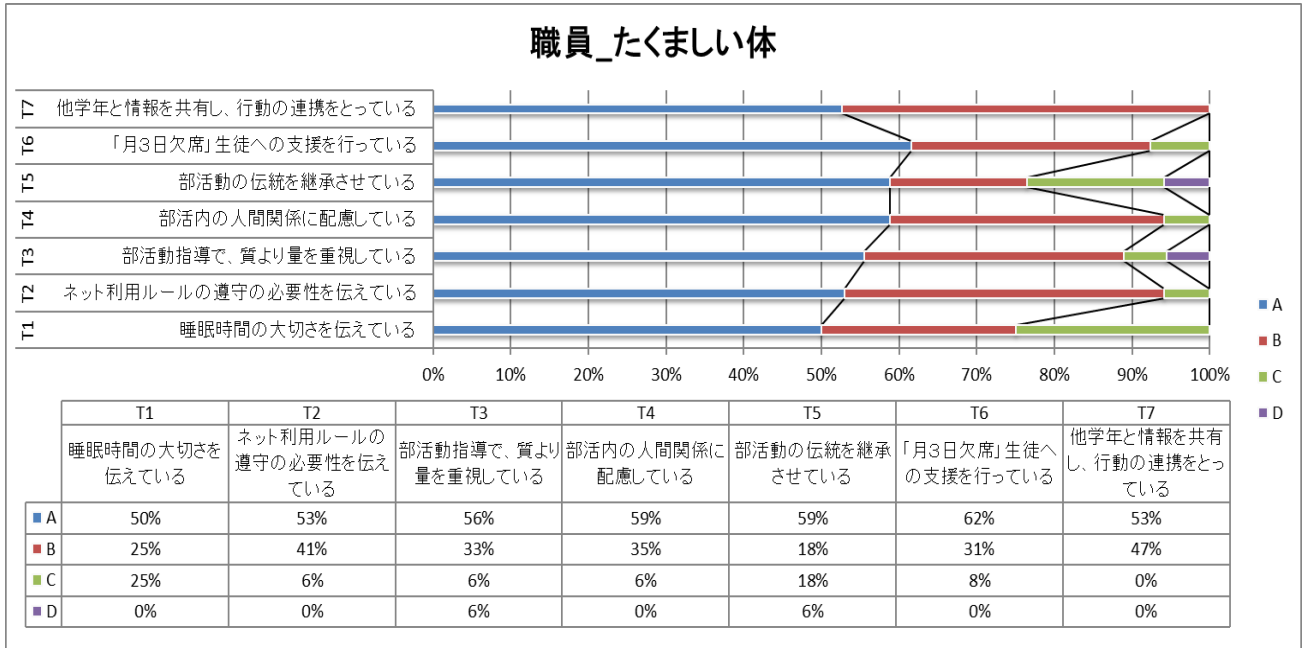
成果（○）と課題（▲）

○多くの項目で上昇傾向にある。特に相手のことを思いやることやみんなと過ごすことについては、体育大会や合唱コンクールなどの行事をとおして相手の良さを認めるなど仲間意識が向上したことが要因と考えられる。

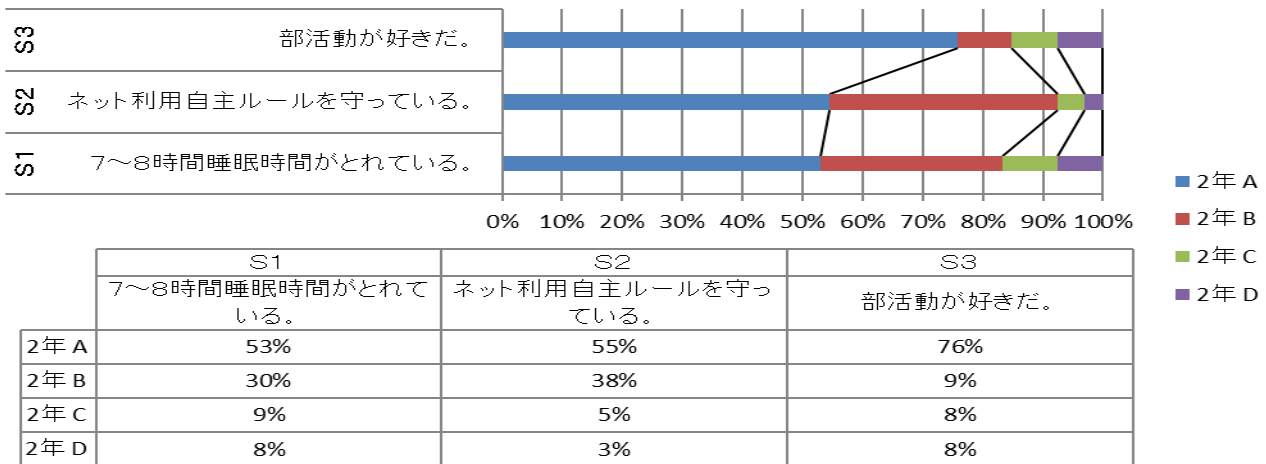
▲「学校生活が楽しい」の項目で、Aが下がりBの割合が高くなった。受験に向け、学習中心の生活が始まったこともその原因と考えられる。

▲「挨拶」が低下傾向にある。受験に向けた面接指導をきっかけに、挨拶への意識づけを行い、全体のレベルアップを図る。

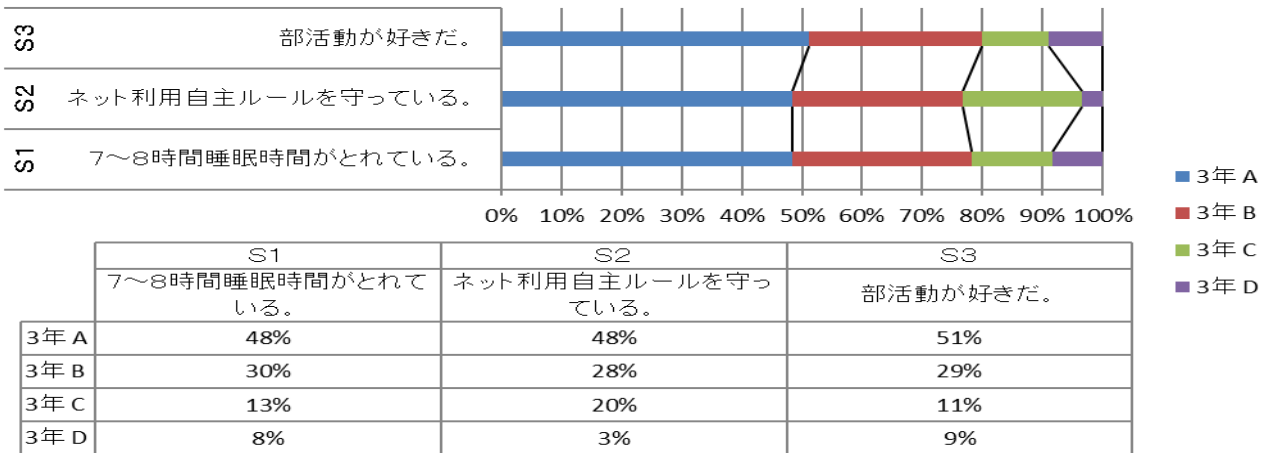
学校評価（2学期末） たくましい体



たくましい体_2年生



たくましい体_3年生



成果 (○) と課題 (▲)

○睡眠に関しては、3年生の7割1. 2年生の8割が十分な睡眠時間を確保している。

○ネット利用自主ルールに関して、3年生7割、1.2年生8割が遵守している。

○部活動に関しても、全学年で8割以上が好きだと感じている。

▲ネット利用に関しては3年生の2割がルールを守れていないと感じている。

次年度取組事項

- ・睡眠時間の確保について、ネット利用時間のコントロールを含めて養護教諭と連携をとりながら指導にあたる。
- ・部活動については、教職員の「人間関係」への配慮を今後も優先させつつ部活動の質的な向上を目指す。
- ・ネットやLINEの利用や書き込む上でのモラルなどについて、全学年共通で講演会を聞くなどして考えさせる機会を持つ。

生徒指導に関すること

(1) いじめ調査

いじめの状況等に関する調査(3月分)														
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
⑤いじめ対策委員会 実施回数		1	1	1	1	0	1	4	1	1	1	1	0	13
⑤いじめ対応サポート班 実施回数		0	0	0	2	0	3	4	0	1	1	0	0	11

平成31年度	事例No	学年	性別	①月別いじめ認知件数 【発生した月に「1」を入力】												②いじめの態様 【該当欄に「1」を入力・複数回答可】										③いじめの認知後、いじめに係る 行為が止むまでの期間 【該当欄に「1」を入力】					⑤いじめ の解消 【該当欄 に「1」を 入力】	⑥いじめへの対処 概要や対処の状況 (※行為が止んでいない 場合や3ヶ月経過しても解 消していない場合はその 理由を記載) ・重大事態			
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	し 冷 や か し や か ら か い 、 悪 口 や 脅 し 等	仲 間 に よ る 無 視	軽 く あ ら わ せ ら れ る 、 追 っ つ か れ る 、 遊 ぶ ふ り を し て 、 叩 か れ る 、 蹴 ら れ る	た り ど く ぶ つ が た ら し 、 叩 か れ る	金 品 を た か ら れ る	金 品 を 隠 さ れ る 、 盗 ま れ る 、 壊 さ れ る	嫌 な こ と や 危 険 な こ と を さ れ た り さ せ ら れ た り す る	中 傷 や 嫌 な こ と を さ れ る	バ ソ コ ン や 携 帯 電 話 等 で 、 誹 謗	そ の 他	1 日	2 ・ 3 日	1 週 間 以 内	1 か 月 以 内	2 か 月 以 内			3 か 月 以 内	3 か 月 越 え	
計	5	5	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	3	
例1	1	男																															0	行為は止んでおり、見守りを継続中	
例2	6	女																															0	重大事態(不登校)	
いじめ1	3	男				1									1																		1	保護者からの話で発覚。本人への指導後はない。	
いじめ2	2	女						1							1	1																	1	母親と本人の話から発覚。人間関係が変化したがお互い安定。	
いじめ3	1	男						1							1	1																	1	母親と本人からの訴えで発覚。その後加害側の指導で止まる。	
いじめ4																																			
いじめ5																																			

(2) 不登校状況 (12月末現在)

2年 Aさん 欠席 10 遅刻 5 早退 0

3年 Bさん 欠席 7 遅刻 8 9 早退 3 別室登校 3 9

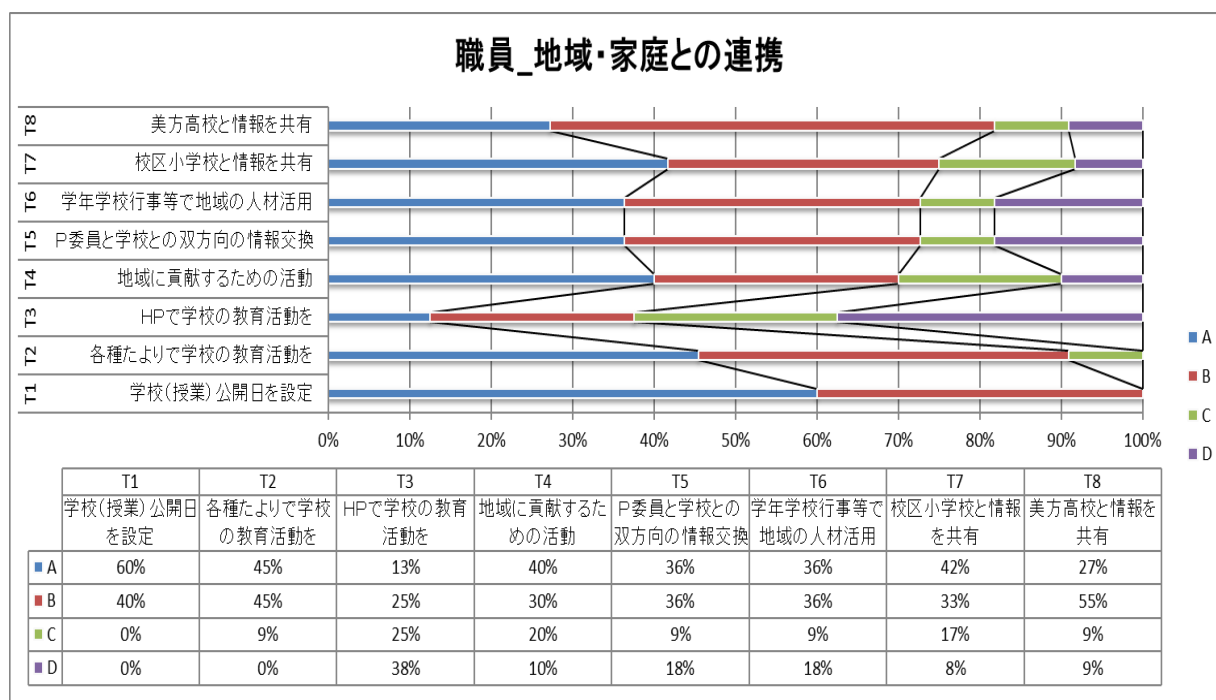
(3) 生活指導状況

- 問題行動 特になし
- 服装等指導 春、秋冬の服装等について「スクールライフ」を再確認

(4) 安全指導

- 安全タスキ 登下校時の安全確保のため、全生徒が着用。
- 引き渡し訓練 通常の避難訓練に加え、非常時の保護者への引渡訓練を実施。

学校評価（2学期末） 地域・家庭との連携



成果（○）と課題（▲）

- 学級通信・学年通信・生徒指導だより・保健だよりを定期的に発行することにより、生徒・保護者への啓発や、本校の教育活動についての情報発信が適切に行われている。
- P T A教育講演会において、ネット利用にまつわる危険性を学んだ。保護者と1年生が講演を聴いた後、ワークショップを行い、各家庭におけるネット利用のルールについて話し合い、意識を高める機会となった。
- 「総合的な学習の時間」における「職場体験」や「町づくりプラン」の実施に関して、地域の方々との連携を進め、地域の教育力を活用することができた。今年度初めて行われた「若フェス」に全校生徒で参加し、地域の方々とふれあう機会をもった。
- P T Aの活動に関して、総会の回数を1回に減らす、地区別ふれ合いトークの休止など取組みの精選や活動の見直しを進めた。
- ▲ 「総合的な学習の時間」や「キャリア教育」の指導計画について、3カ年にわたる学習活動に連続性や継続性をもたせるように見直しを図るとともに、地域の教育力活用に関して効果を高めることを目指す必要がある。

3学期取組事項

- ・ 地域との連携を深めその教育力をさらに効果的に活用していくために、地域コーディネーターを選任し、地域と学校の連携を深めるための組織作りを行う。

第1回 家庭・地域・学校協議会

期 日：令和元年5月24日（金）19：30～

場 所：三方中学校 校長室

出席者：11名 欠席（中村氏・小山田氏）

意 見：

◆協議会の持ち方について

（今井）協議会の資料を事前に配布してほしい。前もって目を通しておけば様々な意見を述べることも可能になる。

◆豊かな心について

（山口）2年生が今年から2クラスになり、人数が増えて活気が出てきたことはとても良いことだ。

（武長）昨年も楽しかったが、今年度のクラスも楽しいといっている。

（田中）校外での挨拶の様子が今一つ元気がない。小学生や高校生は大きな声で挨拶をする。思春期に入り仕方のない面もあるのかもしれない。大きな声で元気に挨拶ができると感じよく受け取られるのだが。

大人から声掛けをすることが大事なのかもしれない。

（山口）自分の考えを安心して伝えあえる学級づくりというのはとても大事なことです。

◆交通安全について

（河原）毎年、新年度に入ると自転車のマナーについて地域の方から指摘されることが多い。特に三方郵便局横の坂道などの走り方について連絡がある。

（今井）昨年話に上がった前川の交差点の件だが、内田前校長が安全な登校ルートがないか現地に赴き調査をしていたが、なかなか現実的なものがない。

「自分の身は自分で守る」ということを教えていく必要もある。

◆たくましい体について

（山口）睡眠時間の7～8時間は確保できているのか。

（学校）テスト期間は短くなっているかもしれないが、他は概ねできているのではないかと。

（松村）三方中学校の「スマートルール」を親が知らないというケースが多いように思う。

（学校）それは把握している。生徒自らがルールを作成したころと比較し、発信が十分ではない感じがある。今後考えていきたい。

◆働き方改革について

（今井）三方小は昨年登校時間を遅らせて、朝早くから職員が出勤しなくて済むように工夫したと聞いた。工夫が必要だ、例えばフレックスタイムのような取り組みはできないのか。

第2回 家庭・地域・学校協議会

期 日：令和2年2月14日（金）19：30～

場 所：三方中学校 校長室

出席者：9名 欠席（田中氏・小山田氏・中村氏・田辺氏）

外部評価：学校評価の結果を踏まえて

◆今井氏

- ・学校評価は自己評価によるものであり、否定的な回答は0%となることが理想。現在、否定的な回答をしている数%の生徒に対するフォローのあり方を検討する必要がある。
- ・三方交番での三方中学校に対する評判は良い。事件や事故、非行なども無い。挨拶をよくする印象がある。安全タスキをしっかりと着用しているように感じる。

◆山口氏

- ・学校評価アンケートに子どもたちは正直に答えていると思う。学校は数字に一喜一憂せず取組を続ければ良い。
- ・体育大会を見させてもらったが、2色になり寂しさを感じたが子どもたちは一生懸命取り組んでいて安心。
- ・スマートフォンなど情報機器については、使用できるようになることも必要。
- ・子どもたちは様々な経験をし、失敗することで力をつけていく。大人はそれをしっかりと見守っていくことが大事。

◆武長氏

- ・地域の中で、子どもたちはとても仲が良い。男女を問わずお互いの家を行き来して関わりをもっている。高校入学後、年齢があがったり、行動範囲が広がっていくなかで人との関わりがどう変化していくのか心配。
- ・水曜短縮日課の導入以降、帰宅時間が早くなり子どもも親も助かっている。

◆山田氏

- ・評価の数字にこだわらず、子ども自身を見て指導をお願いしたい。
- ・好ましい友人関係をつくっていくことがとても難しそうだ。

◆松村氏

- ・総合的な学習の時間（三方学）での体験を楽しそうに家で話していた。
- ・睡眠時間を確保することが重要。